

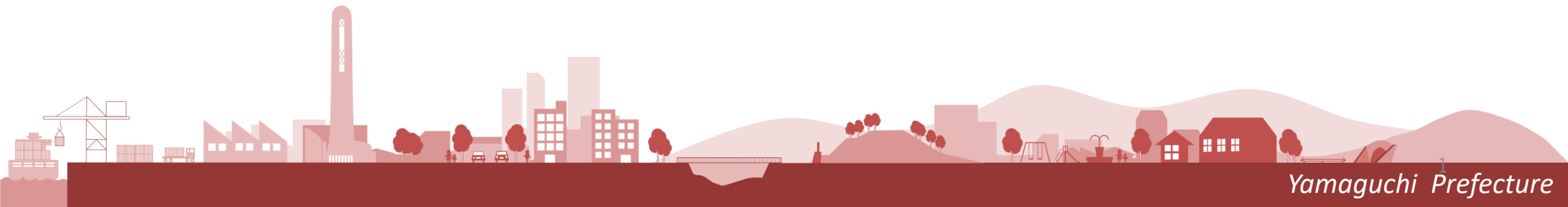


3次元点群データ利活用の 共通方針について

令和7年6月

山口県 土木建築部

技術管理課 建設DX推進班



【共通方針の目的】

3次元点群データに共通方針を設けることは、データ活用の質と持続性を高めるうえで不可欠です。形式や命名ルール、保存方法を統一することで、担当者が変わってもスムーズに引き継ぎができ、業務の効率化と精度向上につながります。また、部局や市町を越えた連携が可能となり、広域的なインフラ管理や災害対応にも有効です。外部機関との連携や技術支援の際にも、標準化されたデータは信頼性と対応力を高めます。さらに、将来的なAI活用や自動化、スマートインフラへの展開にも対応しやすくなります。共通方針は、点群データを「単なる記録」から「活用可能な資産」へと転換するための第一歩です。

標準保存形式

LAS型式 (.las) : 国際標準であり、属性情報も付与可能

※グラウンドデータがある場合は、オリジナルと分けて2データを保存

※点群にはRGB（色情報）を付与する。

座標系

原則として、公共座標系（日本平面直角座標系）と数学座標系の両者を取り扱う

（MCCでの公開用のlasは公共座標系、3DDBでの公開用のlasは数学座標系）

ファイル命名ルール

〈取得日（YYYYMMDD）〉 _ 〈工事・業務名〉 _ 〈地域・構造物名〉

_ 〈オリジナル(ORG)orグラウンド(GRD)〉 _ 〈公共座標(XY)or数学座標(YX)〉 . 〈拡張子〉

（例）20250526_主要地方道徳山港線単独道路改良工事に伴う測量業務委託_御幸通り_ORG_XY.las

※命名ルールの目的は、データの検索性・識別性を高め、将来の再利用を容易にすることであるため、その目的を満たせば多少異なってもよい。